

献呈のことば

荒川譲先生は、昭和三五年、東京大学独文学科を卒業、同大学大学院に進まれ、昭和三八年、鹿児島大学文理学部にて赴任されました。昭和四〇年からは新設の教養部に移られ、その後、平成九年に組織改革により教養部が廃止されるまで三一年間にわたって教養部で独語の教育と独文学研究に携わってこられました。昭和四六年から一年余りベルリン自由大学に留学され、昭和五二年に教授に昇任されました。大学行政においては、昭和五三年からは四期七年にわたって評議員を、その後三期六年にわたって教養部長（評議員兼任）を勤め、教養部の運営に尽力されるとともに、大学の自治を守り、鹿児島大学の民主的な運営に貢献されました。また、平成五年からは二期四年にわたり附属図書館長として、図書館新設とその整備に力を尽くされました。学会における活動としては、専攻の日本独文学会はもちろんのこと、一般教育学会（現・大学教育学会）でも活躍されました。平成九年の学部・教養部の組織改革にともない、法文学部法政策学科に移籍され、共通教育の独語とともに専門教育の社会文化論の講義を担当されました。

先生の活動は、大学における教育研究と大学運営への貢献のみでなく、地域社会における憲法擁護や平和運動などの社会運動にも及び、そこにおいても指導的役割を果たされました。

大学の自治と民主的運営に一貫して尽力されてきた先生には、大学の自主的な改革としての内実を欠いた教養部廃止と学部改組は、不本意なものであり、また、昨今の国立学校設置法等の改正や大学の独立行政法人化の動きは、気掛かりなものであるに違いありません。

私たちは、先生の追求された大学における教育研究と大学の自治の精神を受け継ぎ、発展させる努力を誓いこの論集を献呈します。

平成一二年三月